

中野区教育委員会会議録

令和8年第19回定例会

令和8年8月7日

中野区教育委員会

令和8年第19回中野区教育委員会定例会

○日時

令和8年8月7日（金）

開会 午後 7時00分

閉会 午後 8時17分

○場所

中野区役所7階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 高野 治人

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 森 克久

子ども・教育政策課長 小堺 充

指導室長 井元 章二

学務課長 佐藤 貴之

学校支援担当課長 関田 勇介

子ども教育施設課長 原 太洋

南台小学校長 西 敏生

中野東中学校長 津村 慶

○書記

教育委員会係長 網野 愛子

教育委員会係 神垣 真帆

教育委員会係 始関 友海

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 高野 治人

○傍聴者数

11人

○議事日程

1 報告事項

(1) 教育長及び委員活動報告

① 7月11日 合同進路相談会

② 7月18日 第44回町会連合会初期消火機器操法大会

③ 8月4、5日 福島県田村市とのスポーツ交流

2 協議事項

(1) 英語教育の充実（指導室・南台小学校・中野東中学校）

○議事経過

午後 7 時 00 分開会

田代教育長

定足数に達しましたので、教育委員会第 19 回定例会を開会いたします。

本日の夜の教育委員会は、夜間に教育委員会を開催することによりまして、昼間、教育委員会を傍聴することが難しい方にも教育委員会を傍聴できる機会を設けるために実施しております。会議の進行につきましては通常の教育委員会と同じように進めてまいります。

初めに、傍聴の許可についてお諮りをいたします。

教育委員会の会議の傍聴人の数につきましては、中野区教育委員会傍聴規則第 3 条により、20 人以内と定められておりますが、教育委員会が認めた場合には、20 人を超えることができることとされております。本日は、あらかじめ 20 人を超えて傍聴することを認めたと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

それでは、議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、高野委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<教育長及び委員活動報告>

田代教育長

初めに、報告事項に入ります。教育長及び委員活動報告につきまして、事務局からご報告をお願いします。

子ども・教育政策課長

それでは、ご報告させていただきます。

7 月 11 日、合同進路相談会、7 月 18 日、第 44 回町会連合会初期消化機器操法大会。8 月 4 日、5 日、福島県田村市とのスポーツ交流。いずれも田代教育長がご出席されました。

報告は以上でございます。

田代教育長

各委員から活動報告等ございましたらお願いいたします。

伊藤委員

ありがとうございます。8月2日に全国学校臨床心理士の研修会というのが京都でありまして、全国から臨床心理士のスクールカウンセラーが集まる会だったのですが、その中で臨床心理士のスクールカウンセラーや担当の文部科学省の方のお話がありました。

その中で特にご報告したいなと思いましたが、やはり自死予防ですとか、不登校ですとか、様々なことがある中で、子どもに対して、心の健康についての知識や情報を、学校も提供していくということが確実に行われるようにするという方向性がはっきりしてまいりましたので、ぜひ中野区でも、また先進的な取組があるといいなと思いましたが。

以上でございます。

高野委員

7月11日に東京都医師会の学校医研修会に出席してまいりました。こちらは学校運動器検診などについての講演がありまして、今のところ中野区の検診については、このままでやり方についても問題ないかと思います。

以上です。

田代教育長

ほかに各委員から活動報告等ございましたらお願いします。よろしいですか。

それでは、私から活動報告を3点いたします。

最初に、7月11日土曜日、中野区立総合体育館におきまして、中学校PTA連合会主催による合同進路相談会が開催されました。この相談会は、今年で7回目を迎えます。コロナ禍においては開催が困難な状況もありましたが、中止するのではなく、子どもたちに進路への目標や意欲を持たせたいとの思いから、PTA会長の皆様が協力し、高等学校の校長先生方に学校紹介動画を作成していただき、それを編集して区内の全中学校が視聴できるようにするなどの工夫を重ねてこられました。

そうした継続的な取組の成果もあり、今年度は都立、私立合わせて73校が参加し、各ブースで生徒や保護者に対して丁寧な説明を行っていただきました。参加者数は、生徒と保護者を合わせて1,500名を超え、大変盛況な相談会となりました。特に中学校3年生にとっては、夏休みを前に進路について具体的な話を聞くことができ、自らの目標を見据えて学習に取り組む、よい機会になったものと感じています。また、PTA、学校、高等学校が連携して、子どもたちの進路選択を支える中野区らしい取組であると改めて実感しました。

次に、7月18日土曜日に、町会連合会主催による初期消火機器操法大会が中野四季の森公園イベント広場で開催されました。大会では、スタンドパイプ操法と、バケツリレーの競技が行われ、スタンドパイプ操法には11町会、バケツリレーには10町会が参加しました。また、今年度は中学校も参加し、スタンドパイプ操法には6校、バケツリレーには区内全9校の中学校が参加しました。スタンドパイプ操法に参加した生徒たちは、中野消防署や野方消防署の皆様から直接ご指導をいただき、本番に向けて練習を重ねました。

また、バケツリレーに参加したチームも、学校ごとに熱心に練習に取り組みました。3年生が部活動の大会と重なったため、1年生が代わって出場した学校もありましたが、生徒たちはそれぞれの役割をしっかりと果たしていました。全ての中学校が参加するのは初めてのことであり、大会は大いに盛り上がりました。競技の結果、スタンドパイプ操法の優秀中学校は、第二中学校と中野東中学校、バケツリレーの優秀中学校は第二中学校と第五中学校でした。

最後に、8月4日と5日の1泊2日で、中野区と田村市の中学生によるスポーツ交流事業が実施されました。福島県田村市常葉町には、かつて中野区常葉少年自然の家があり、長年にわたり両地域の交流が続いてきました。しかし、東日本大震災後、この施設は使用されなくなりました。その後も、中野区と田村市との交流は途切れることなく、大人を中心としたスポーツ交流事業が継続されてきました。今回、その交流を次世代へつなげる取組として、初めて中学生によるスポーツ交流事業が実現しました。

今回は、バスケットボールを通じた交流として、中野中学校男子バスケットボール部の1・2年生、22名が田村市を訪問しました。初日は田村市の農業協同組合の皆様のご協力により、地元の新鮮な野菜を使ってカレーライスをつくりました。その後、田村市内の3校の中学校バスケットボール部の皆さんと合同練習を行いました。2日目の午前中は交流試合も実施され、競技を通じて互いに刺激を受けながら親睦を深めることができました。また、午後はあぶくま洞を見学するなど、田村市の自然や文化に触れる機会となりました。参加した生徒たちは、まるで合宿のように充実した時間を過ごしており、学校の枠を超えた貴重な経験になったものと感じております。来年度は田村市の中学生が中野区を訪問する予定となっております。今回の交流を契機として、両地域の結びつきがさらに深まり、生徒たちの視野を広げる有意義な事業へと発展していくことを期待しています。

そのほか、発言がなければ委員活動報告を終了いたします。

<協議事項>

田代教育長

次に、本日の協議事項「英語教育の充実」についての協議に入ります。協議終了後、会議を一旦休憩し、本日の協議テーマに関して傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、英語教育の充実についての協議をいたします。

初めに、指導室から中野区教育委員会としての取組について説明をいただきます。その後、小学校から1校、中学校から1校、本テーマについて、取組等の発表をしていただきます。小学校、中学校の発表の都度、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めてまいります。

それでは、指導室長からお願いいたします。

指導室長

私からは、本日の協議テーマである英語教育の充実について、現在の子どもたちの実態と、区として進めている主な取組、そして今後の方向性についてご報告をいたします。

スライド2ページ目をごらんください。本区の英語教育の目的でございますが、中野区では、グローバル社会を生きる子どもたちがまず英語を好きになり、実践的な英語力を身につけることを目指しております。また、多様な文化や価値観を認め合う中野区の公立学校の魅力向上にもつなげていきたいと考えております。

3枚目をごらんください。こちらは英語教育実施状況調査において、CEFR A1レベル、英検3級相当以上の英語力を有すると考えられる生徒の割合でございますが、令和7年度は74.4%となってございます。およそ4人に3人の生徒が、英検3級相当の英語力に到達している状況でございます。

次のスライドをごらんください。こちらはその推移でございます。中野区は令和4年度の62.7%から、令和7年度には74.4%まで上昇しております。東京都や全国と比較しても高い水準にあり、これまでの取組の成果があらわれているものと考えております。一方で、さらなる向上を図るため継続的な取組が必要であると認識してございます。

次のスライドをごらんください。こちらは他自治体との比較でございます。中野区の74.4%は、東京都平均を大きく上回る結果となってございます。一方で、高い成果を上げているさいたま市や福井県では、80%を超える水準も見られます。こうした先進自治体の取組も参考にしながら、中野区としてさらなる英語力向上を目指してまいります。

次のスライドをごらんください。こちらは、令和6年度から令和8年度に実施した英語

の学力調査の、中学校3年生の結果でございます。知識・技能、思考・判断・表現ともに全国を上回っている状況でございます。英語においては、知識、技能だけではなく、思考力、判断力、表現力の育成が重要でございます。調査結果を分析しながら、実際のコミュニケーション場面で英語を活用できる力の育成に重点を置いた授業改善を進めているところでございます。

次のスライドをごらんください。こちらは、生徒の意識調査の結果でございます。英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢はいずれの年も「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の肯定的割合が全国を上回ってございます。引き続き、子どもたちが英語を学ぶ楽しさや必要性を実感できる学習環境の充実を図ってまいります。

次のスライドをごらんください。ここからは現在行っております主な取組についてご紹介をさせていただきます。

まずALTの活用です。今年度から、中学校への全日配置を実施しております。授業での活用に加え、スピーキングテストの支援や個別学習の補助、イングリッシュカフェの実施など、日常的に英語に触れる機会を増やしております。また、小学校1年生、2年生の外国語活動や、学校生活全般での交流も推進しております。

次のスライドをごらんください。英語検定受験の促進です。全ての中学校3年生が英検を受験できる環境を整えております。学校を準会場として活用し、受験料を区が負担することで、生徒が挑戦しやすい仕組みを構築しております。

次のスライドをごらんください。英検サポートプログラムも現在実施しております。小学校6年生では英検ESG、中学生では英検IBAを実施し、児童生徒一人ひとりの英語力を把握しております。その結果を指導改善に生かしながら段階的な英語力向上につなげてまいります。

次のスライドをごらんください。ICTの活用でございますが、ドリル型学習アプリによる基礎基本の定着に加え、英検AIアプリの活用も試行的に進めております。特に「書くこと」の力を高めるため、生徒一人ひとりの状況に応じた学習支援を、AIを活用して行っております。

次のスライドをごらんください。こちらはTOKYO GLOBAL GATEWAYでの体験型学習の様子でございます。小学校4年生を対象に、英語だけでコミュニケーションを行う体験活動を実施しております。実際の場面で英語を使う楽しさを感じることで、学習意欲の向上につなげております。

次のスライドをごらんください。中学校1年生を対象とした軽井沢少年自然の家での1泊2日のイングリッシュキャンプも実施しております。ALTとともに英語で活動することで、英語を使うことへの抵抗感を減らし、コミュニケーション能力の向上を図っております。

次のスライドをごらんください。児童生徒の英語力向上には、教員の指導力向上も欠かせません。そのため、英語教育アドバイザーを活用し、年間3回の小中合同の教員向け研修や検討委員会などを実施してきました。今後も授業改善につながる支援を継続してまいります。

次のスライドをごらんください。これまで述べたほかにも、文部科学省の補助を受けて英語デジタル教科書を全校に導入したり、中学生英語スピーチ発表会をなかのZEROで行ったり、ウェリントンの留学生と交流したりするなど、多様な取組を推進しております。英語を学ぶだけでなく、英語を使う機会を積極的に創出しております。

最後に今後の方向性でございます。

次のスライドをごらんください。中野区では、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合を現在の74.4%から80%へと引き上げることを目標としております。そのために、今後ALTを幼稚園やフリーステップルームで活用するなどのさらなる拡充を検討するとともに、試行導入しているアプリを活用した指導方法の検証や、ホームページ等の広報媒体を利用した英語力アップに向けた機運のさらなる醸成、そして教員の指導力のさらなる向上を進めてまいります。

次のスライドをごらんください。本日、ご参加の皆様のご意見を踏まえまして、学校とともに英語教育を充実させてまいります。忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

それでは続いて、南台小学校から説明をお願いいたします。

南台小学校長

中野区立小学校の英語教育の充実について報告をさせていただきます。南台小学校校長の西敏生と申します。よろしくお願いいたします。

次のスライドをお願いします。まず、私が子どもの頃の公立学校での英語の学習について、極端に話しますと、英文を読んだり、英語を書いたり、文法を覚えたりする内容に重点が置かれ、テストに向けた知識や理解力は高まりますが、自分が伝えたいことを英語に置

き換えて進んでコミュニケーションをとることには、つながりにくかったのを覚えています。改めて現在の英語教育においては、子どもたちが言語や文化に対する理解を深め、外国語を学ぶ意欲を持ち、多文化共生が進んだ社会において外国語におけるコミュニケーション能力を身につけることが重要視されています。

次のスライドをごらんください。平成23年度から5・6年生で外国語活動が行われるようになり、その後、学習指導要領の改定で令和2年度から3・4年生で外国語活動、5・6年生で外国語の学習を行うようになりました。3・4年生の外国語活動35時間と、5・6年生の外国語70時間は国で定められた授業時数となります。1年間の登校日を35週間で考えると、3・4年生の外国語活動は週に1回、5・6年生の外国語は週に2回行っていることとなります。先ほどご説明があったとおり、1・2年生の外国語活動は中野区教育委員会で定められた授業の時間となります。年間で2、3週間に1回行っていることとなります。また、各学年のALT配置時数はスライドのとおりとなります。

次のスライドをごらんください。外国語活動や外国語で身につける力は国際的な基準をもとに聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの5領域に分けられています。小学校段階ではそのうち、聞くこと、話すことを重視した学習が展開されています。例えば、「I can play tennis.」の学び方です。私が子どもの頃は、「私はテニスができます。」を英語で学ぶ場合、主語「I」の後ろにまず助動詞のcanを書いて、その後に動詞のplayが来て、最後に名詞が来る。プレイのLがRにならないように、テニスのつづりはNが2個続くという感じで授業での説明があり、この表現を覚えるために必死にノートに書くというような流れでした。もちろん現在においても、中学校、高校段階でより詳しく英語で説明したり、長い英文を読んだりするようになった場合、複雑な文法を習得するためにはそういった学習方法も必要になってくると思います。ですが、特に小学校段階では、「I can play tennis.」「I can play baseball.」「I can play basketball.」「I can play soccer.」といった、子どもたちが「I can play ○○.」をたくさん聞いて話すことで、自分ができるスポーツについて言うときは、「I can play ～.」を使うんだなと理解し、自分ができることを英語で言ってみたいな、みんなができることは何だろう、先生やALTは何が得意かなという流れで、英語に慣れ親しみながら習得していきます。まず、たくさん耳から聞く、そして声に出してみる。これを繰り返していった先に目で読むこと、手で書くことにも慣れ親しんでいく段階となっていきます。そ

して英語が無機質な記号として子どもたちにインプットされるのではなく、コミュニケーションに向けた生きた文字として習得されることが大切です。「I can play～」の「I」はただ紙に書いてある「I」ではなく、担任が話せば担任の「I」であり、友達が話せば友達の「I」であり、自分が話せば自分の「I」である。目的、場面、状況が明確になると、コミュニケーションをとる必然性が生まれていきます。

次のスライドをごらんください。では、実際の低学年の外国語活動の様子を紹介していきます。1年生でも、クラスルームイングリッシュを使って外国語活動の雰囲気づくりをしていきます。まず、授業が始まる前に、「Clean up your desk.」と言って机の上をきれいにさせます。「Hello, Mr. ○○, how are you?」「I'm happy.」「I'm sleepy.」「I'm hungry.」「I'm hot.」そうして雰囲気づくりをしていきます。そして、「Rock scissors paper, 1, 2, 3!」でじゃんけんをして、勝った子が負けた子に「How are you?」で質問するといった簡単なやり取りもしています。席に戻るときは、「1, 2, 3, 4」と数え、英語の数え方を音声で浴びせていきます。

右の写真は、この日の学習「動物の言い方を知ろう」で、動物の絵カードが黒板に貼ってあります。授業者やALTと一緒に動物を英語で言っています。

次のスライドをごらんください。その後、「What ○○ do you like?」の表現を使って、自分の好きなものを答えています。前回の授業では、色の言い方を知るため、「What color do you like?」「I like red.」「I like blue.」などのやり取りをしました。今回は「What animal do you like?」「I like birds.」「I like cats.」といったように、簡単なやり取りをしながら楽しみました。このように低学年や中学年の外国語活動では、音声中心に聞いたり話したりする活動をメインにして、英語に慣れ親しんでいます。

次のスライドをごらんください。続いて高学年の外国語の様子です。まず、この授業が行われた日は7月10日でしたので、授業者は「Pizza day in Brazil.」といって、ブラジルの文化に触れて話をしました。その後、授業者が左側のスイーツやドリンクの絵を見せながら、「Do you like ○○?」「Yes I do.」「No, I don't. I like ○○.」といった、低中学年よりも一歩進んだやり取りを行っています。席が近くの子とペアになって、「Hello, I like ○○.」「I don't like ○○.」のように、30秒程度自分のことを伝え合う活動もしてしまし

た。そして、この授業では右の黒板に書いてある内容が学習の中心となります。自分のできることを相手に伝えるというものです。

次のスライドをごらんください。子どもたちは自分の i P a d でメモを作成し、その後ペアごとに分かれて発表し合っていました。話している内容は i P a d で録音することで授業者も後で確認することができます。

次のスライドをごらんください。これが友達への発表に向けて i P a d に書き込んだメモです。文字を丁寧に正しく書くことも大切ですが、自分の考えを発信したいという思いを大切にする場合、多少つづりが違っていても、メモを書かせる活動も必要になります。まず左側の写真ですが、「I c a n ○○.」を用いて、自分のできることを丸の中に書き、さらにそこから関連する言葉を書き込んでいるのがわかります。例えば左上には「I c a n p l a y v o l l e y b a l l.」とあり、その下につづりが多少違いますが、「r e c e i v e」と書いてあります。右上には、「I c a n p l a y b a s e b a l l.」とあり、その下に「c a t c h e r」と書いてあります。

次に右側のメモですが、スポーツができること、サッカーができること、サッカーの守備が得意であることなどを英語で伝えるためのメモが書かれています。「s p o r t s」と「s o c c e r」のつづりが違いますが、英語で相手に伝えるために頑張って書いたことがわかります。なお、つづりの間違いについては、A L T に聞いたり、授業者が気づいてタイミングを見て助言したりすることで解決していきます。

次のスライドをごらんください。先ほどから小学校では音声中心の学習から段階的に読むこと、書くことにも慣れ親しんでいくとお伝えしています。このように、教員が書いた文字や教科書に書かれている文字を書き写したり、選んで書いたりするという学習を高学年で取り扱っていきます。また、文字の読み方が発音されるのを聞いて、活字体の大文字、小文字を書く活動も取り入れています。

次のスライドをごらんください。A L T は子どもたちとのやり取りのほかに、教員と連携して、写真のように学習環境を整えるサポートも行っています。

次のスライドをごらんください。先ほど指導室長からもご紹介のありました小学校4年生のT O K Y O G L O B A L G A T E W A Yでの体験についても紹介させていただきます。子どもたち8人くらいでグループをつくり、1グループに1人のイングリッシュスピーカーがついて、オールイングリッシュの環境でアトラクションエリアを回っていきます。写真は左が薬局、真ん中が飛行機の機内、右は売店となります。自然と英語でのコミュニ

ケーションをとりたいと思える目的、場面、状況が揃ったすばらしい環境です。発達の段階や学習経験からも、小学校4年生がT O K Y O G L O B A L G A T E W A Yを体験するのによい時期となっています。

次のスライドをごらんください。最後に、英語教育のさらなる充実に向けてです。現在、次期学習指導要領の改定に向けて、ワーキンググループでも様々な議論が行われていますが、異校種間の連携については、特に小学校段階の書くことの学びを中学校1年生にどのように引き継ぐかが注目されています。まずは小学校、中学校、高校の教員が他の校種の学習内容や狙いをしっかりと把握すること。発達の段階に応じて十分な学びを保証することが大切です。また、A Iの時代で翻訳機も進化している中、改めて英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う意欲を持続させることも大切です。

本校では、小学校4年生の総合的な学習の時間の国際理解の単元で、J I C Aの方との英語での交流や、その関連でタイの子どもたちとオンラインで話す機会を設けています。各校においてもコミュニティスクールの取組を生かして、地域人材で外国籍の方や英語を話せる方と交流をすることも考えられます。また、日本人学校に勤務している教員を頼りに、現地の子どもたちと交流すると取組も考えられます。さらに、中野区では中学生がウェリントンとの交流を続けていますので、小学生もその機会を活用させていただくことも考えられます。このようにして、今の時代に合った英語教育を今後も進めてまいります。

私からの報告は以上となります。

田代教育長

ただいまの南台小学校の説明について、教育委員の皆様からご意見やご質問をお伺いいたします。いかがでしょうか。

伊藤委員

具体的な例を挙げていただいて、従来というか、随分、昔の文法中心の解説的な英語から、体験的に自発的に話せる英語への教育の変化がすごく伝わってきて、ありがとうございました。

その中でよく言われることだと思うのですが、書くことですか、中学校ではどうしても文法的なことも出てくるので、そういう書くことやその応用というところにどう滑らかに接続していくかということがとても大事だと思うのですが、その点について、これからもっとこういうことがあると子どもたちが滑らかにいくのではないかとか、もっとモチベーションが高まるのではないかとか、何かお考えがあったら教えてください。

南台小学校長

例えば、社会科の学習でも地理や歴史について、昔の時代から現代まで、小学校で学んだことを中学校でも改めて学びますが、そのねらいは違います。

英語について、中学校の先生に聞くと、小学校で扱っている文法表現もかなり難しいものを扱っていると聞きます。しかし、先ほどお話をしたように、それは音声中心に学んでいきますので、特に中学校1年生の4月、5月の段階で、小学校で学んだことを振り返りながら、改めて中学校ではこういう学習をしていくのだよということを子どもたちと共有することで、書くことなどの応用的な学習内容が、滑らかに子どもたちに浸透していくのではないかと考えております。

高野委員

詳しい説明ありがとうございました。異校種間の連携や英語で発信したい相手を広げるという表現がありましたけども、せっかく1人ずつiPadを持っていますので、これらのICT機器を利用して、離れたところや外国などと交流も広げていただければと思います。

南台小学校長

今、高野委員からお話があったとおり、子どもたちのICT機器を活用して、他国の子どもたちとつないで、時差の問題もあるのですが、そういった中で自分たちの日本の文化を、違う国の子どもたちに伝えたいという思いを大切にしたい取組はこれからもできるかなと思いますので、改めて活用してまいりたいと思います。

平本委員

詳しいご説明をありがとうございました。私自身の学び方を振り返っても、西校長がおっしゃるとおり、正確な英語であるかどうかということにとらわれ過ぎて、話すことに対する心理的ハードルがとて高くなっていたなということを思い出しました。

今日のご説明をお聞きして、子どもたちが使える英語や、使ってみたいと思えるような体験型の学習がとて増えていてよいなと思いました。実際に英語を使ってみる機会の設定というのが子どもたちの楽しいという気持ちを引き出すということがよくわかりまして、今後もそういった取組が増えていくといいなと思いました。

1点、質問です。資料の最後に、英語教育の充実に向けて発信したい相手を広げるという部分がございますが、先ほど具体的な例も幾つかご紹介していただいたと思うのですが、今、中野区はその地域性ということで、外国籍の方々も増えていらっしゃる、

実際に学校の周りにも英語を使いたいと思う存在がいるのかなと思っております。ですので、ALTの先生の強みを生かしながら、外国籍の保護者とか地域の方々と日常的に交流できるような仕掛けをつくっていくことなども考えられるのではないかなと思っています。

今、コミュニティスクールなどもすごく進んでいると思うので、何かそういったことを活用しながら、地域の外国籍の皆様とも交流をしていくような取組というのが、もし何か具体的に進んでいけば教えていただきたいなということと、もし考えていらっしゃるものがあったら教えていただきたいなと思っています。

南台小学校長

今の平本委員からもお話がありましたとおり、コミュニティスクールを生かしたということであれば、地域人材の中で、例えば外国籍の方とか、あと中野区の場合は大学も幾つかありますので、そういったところに来ている留学生と話をする、学生と話をするという、子どもたちに近い年齢の方たちと交流するというのは一つ考えられるところかなと思っています。また、中野区では、ALTが中学校から順番にさらに充実してきているところですので、小中連携の取組等でそういった中学校のALTとか、普段話していない方と関わるというような体験もより発展的に進めてまいりたいと思います。

以上です。

岡本委員

私、今日もしかしたら英語で定例会をするのではないかなと思ってドキドキしていたのですが、日本語で助かりました。

お伺いしたいのですが、早いご家庭だと幼児期から英会話を習っていることもあると伺います。どれくらいの子どもたちが英会話とか英語を、学校以外の場で習っているのかということ、もしもご存じでしたら教えてほしいです。

あとは、そういう子どもと全く英語に触れてこなかった子どもとでは、やっぱり最初のスタートはちょっと違うのかなという気もしておりまして、何かそういったことを英語の授業で工夫されていることがあれば教えてください。

南台小学校長

地域差はあると思うのですが、まず英語のそういった習い事をやっているということであると、5割はいかないと思うのですが、3、4割の子どもたちがある程度触れたことがある。さらにその中で1割、2割の子どもたちは本当に英語に自信を持って英語の授業の中でも自分が言いたいことをスムーズに英語で言えることが多いのではないかなと思っています。

ます。

ただ、これは英語のことに限らず、例えば算数ですとか、体育ですとか、音楽ですとか、ほかの教科でももともとのスタートラインが違う子どもたちがいる中で、学習を進めていくということがあります。流暢に英語を話せる子どもたちが、英語で表現したいのだけでも伝え方がわからないという子どもたちの教え役になって教えながら、みんなが自分のことを英語で発信できるように協働的に学んでいくということは考えられます。普段からそういった形で、どのレベルの子どもでも自信を持って英語を話せるように、小学校では取り組んでいるところです。

田代教育長

ほかにご意見やご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは西校長、ありがとうございました。

それでは続きまして、中野東中学校から説明をお願いいたします。

中野東中学校長

区立中学校の英語教育における実践報告をさせていただきます。中野区立中野東中学校長の津村と申します。よろしくお願いいたします。

スライドをごらんください。まず初めに、本日の報告の主な内容になります。本日は、今年度から始まったALTの常駐勤務について、そして中学校1年生の宿泊学習イングリッシュキャンプについて、そして、英検対策についての3点を中心に発表をさせていただきます。

次のスライドをごらんください。まずはALTの授業での活用についてです。これまでは常駐勤務ではなかったので、週によって、または曜日によってALTがいない日がありました。そのため、少人数授業の一部分のみを担当してもらい、担当する部分が終わったら次の教室に移動してもらうというスポット的な活用だったわけですが、今年から常駐勤務になりましたので、本校では1時間しっかりと一つの教室にいてもらい、授業中の様々な場面で生徒と関わるようにしています。そのほか、パフォーマンステストをALTが行い、その間に教員が学級での全体指導を進めるといったような体制も組みやすくなりました。

また、他校の教員の感想ですが、ALTに作成を依頼した教材の内容や質が大変よくなったというような感想も聞いています。1日中学校に勤務していますので、空き時間はもちろんですが、放課後等の時間も活用して、ALTが自身の教材開発に取り組めるようになった結果であると思っています。

次のスライドをごらんください。次に授業以外での活用についてご説明いたします。本校では昼休みの時間に「I S S：インターナショナル・スペース・シップ」という場を設定しています。生徒がゲーム、写真はジェンガをしているところですが、ゲームをしながら気軽にA L Tと交流ができるようにしています。この場には、外国籍の生徒や帰国生徒だけではなく、英語が苦手な生徒が来ることもありますので、それらの生徒でも対応できるように、それぞれの学年で学習した質問集のリストもテーブルに置いて、参加しやすくなるような工夫をしています。

次のスライドをごらんください。ほかの取組として、月に1回、金曜日の放課後に「国際交流教室」を開設しています。本校は海外からの帰国生徒が多いという学校の特徴がございます。外国籍の生徒や帰国生徒が集まってゲームをしながら英語で交流をすることで、学年やクラスを超えた人間関係が生まれることと英語力を維持することの二つを目的にしています。ここで行うゲームやクイズもA L Tが全て考えて準備しています。A L Tが考えたお題が出題され、そのお題についてグループごとに考えて答えるというようなゲームなどを行っています。

次のスライドをごらんください。そのほかの授業以外での活用について簡単にまとめてあります。給食を生徒と一緒に食べながらコミュニケーションを図る。本校には英語部がありますので、週に2日活動している英語部の活動で指導をしてもらう。英検の一次試験に受かった生徒を対象に、二次の面接試験の練習をしてもらう。そのほか、11月の連合文化発表会に出場する生徒のスピーチ指導を行うなどの活用をしています。また、これは他校の例になりますが、校内に「A L Tボード」というA L T専用の掲示板を設置して、海外の様子や文化などいろいろな情報発信をしてもらっている学校もあります。その学校では最近、生徒が足を止めてA L Tボードを見るようになったという報告も聞いております。

また、これは本校独自の事情になりますが、帰国生徒が多いため、帰国生徒枠で高校受験をする生徒が一定数います。帰国生徒枠の受験では、高校によっては英語面接を設定している高校がありますので、それらの高校を受験する生徒に対して、面接対策やアドバイス等の指導もA L Tにお願いしています。

次のスライドをごらんください。二つ目のイングリッシュキャンプについてご説明いたします。1年生が1泊2日で行う宿泊行事ですが、1日目の内容は主にこのようになっています。まずは行きのバスの車内でI C E B R E A Kとしてクイズなどのバスレクを行います。軽井沢に到着してからは、O p e n i n g C e r e m o n y をレクホールで行いま

す。上の写真がそれになります。その後、World Tourというプログラムをやるのですが、グループごとにALTのブースを回って、それぞれのALTが担当する国の紹介を聞いてまとめる活動です。内容は、その国の食事、食べ物、スポーツ、文化などを中心に紹介します。

次のEnglish Challengeは英語のクイズやゲームにグループで回答をするチームビルディングです。スライドでは、外で活動している園庭の写真がありますが、これがEnglish Challengeです。たまたま天気がよくて比較的暖かかったので、外で行いました。チームで英語のお題やゲームに回答しながら、交流を深めるアクティビティです。次のCommunication Activitiesは、体を動かしながら英語に親しむ活動です。写真では、ピンポン玉リレーで反対側にALTが待っていて、英語で質問をされますので、それに答えないと自分のチームに戻れないという内容でした。次の星空観察「Star Gazing」は、園庭に出て、スライドにある写真のように星空観察をします。天気がいいと見えるのですが、薄く雲がかかってしまうと見えづらいのがちょっと難点だと思っております。その後は、就寝までの間に翌日の個人発表で行うShow & Tellの準備をします。

次のスライドをごらんください。2日目の内容はこのようになります。Morning Meetingの後、朝食を済ませてから、Show & Tellの練習をします。ALTと目を合わせながら話さなければいけないので、結構、生徒たちは緊張しながら練習します。その後、Show & Tellの本番が下の写真です。本番ではShow & Tellをグループの仲間に向けて行います。そして、聞いているグループの仲間が、発表のジャッジをするという仕組みになっています。基本的には原稿は読まないで、聴衆の目を見て話すようになっていて、下の女子生徒は比較的前を向いてしっかりと発表ができていると思います。その後は、Closing Ceremonyをして、復路のバス内で1泊2日を振り返る活動を行います。

次のスライドをごらんください。イングリッシュキャンプの生徒の感想です。「コミュニケーションが楽しかった」、「積極的に会話をした」、「外国人と話すことに抵抗感がなくなった」など、8割を超える生徒が肯定的に回答していて、効果が出ていると思っております。

一方で、三角の回答ですが、「英語が聞き取れるようになった、あるいは話せるようになった」という項目についてはそれほど高くはありませんでしたが、1泊2日のキャンプ

なのでそれほど劇的に英語力が伸びるということはなかなか期待しづらいと思っています。
子どもたちは正直です。

続きまして、三つ目の英検についてです。まずは受験料を補助していただいていることの効果ですが、生徒にとって英検は英語学習の成果を試す機会であり、また英語学習のモチベーションにもつながっています。高校受験でも、英検を持っていることで内申点に加点をされる高校が多く、そのことは生徒も当然のように知っています。さらに、英検1級や準1級になると、高校や大学に進学してからも一つの資格として活用することができます。このような検定試験に家庭の経済状況に関係なく挑戦できるのは子どもたちにとって、とても素晴らしいことだと考えております。

次のスライドは実際の英検の取得状況です。本校における今年度の第1回目終了、7月の時点での状況は画面のとおりです。3年生は在籍が140名いますので、3級以上の取得率は7月の時点では63.5%となります。第2回目の英検の結果までが高校受験に関係しますので、そこでもかなりの生徒が受験をされると思われます。指導室長からの説明にもありました目標の80%に届くかどうかはギリギリかと思っています。

その他、北中野中学校での取組ですが、2回目の英検を3年生全員受験としていて、そのために夏休みの宿題も英検対策を課すなどの取組をしている学校もあります。

続いて英検対策ソフト、UGUIS AIについてです。今年度、北中野中学校、中野中学校、中野東中学校の3校で、5月から試験的に導入しているAIソフトです。Writing対策やSpeaking対策のほかに、授業では英文添削の機能を主に活用しています。スライドの写真にあるのは、「社内コンペのプレゼンテーション資料を英語でつくる」という内容の課題ですが、生徒はAIソフトを使ってプレゼンテーション説明用の英文を作成しています。

生徒の感想では、「添削だけではなく、文法の解説もしてくれるのがよい」や「よりよい表現を教えてくれるのがいい」といった感想が聞かれています。また教員の感想では、「英語を日本語にする翻訳機能でないのがよい」といった意見が聞かれました。実際の授業の様子を見ていると、元となる英文がつかれない生徒に関しては、なかなかUGUIS AIの活用は難しく、Googleの翻訳機能を使っています。

報告内容をまとめます。まずALTの常駐勤務については、より生きた英語、実践的な英語を学ぶ機会につながっていると言えます。また、授業以外の様々な場で英語を学ぶことが可能になっています。二つ目のイングリッシュキャンプについては、英語力の向上とい

う意味では、効果はそれほど大きくはないかもしれませんが、英語学習に対する意識の向上、そして英語に対する抵抗感の軽減には大きく寄与していると考えます。三つ目の英検補助と英検対策については、英語学習に関する成果の確認や意欲の向上といった側面と、個別最適な英語学習を可能にしているという点で、大変有効であると考えています。

以上が中学校における英語学習の実践報告です。ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

ただいまの中野東中学校の説明につきまして、教育委員の皆様からご意見やご質問をお伺いいたします。いかがでしょうか。

伊藤委員

ご説明ありがとうございます。2点ございます。1点は、先ほど小学校での間違えてもいいから話したいとか、表現したいという気持ちを大事にするというようなあり方からの接続というような意味で、中学校でこういうことを大事にしていच्छゃるとか、従来のことと違う評価も含めて、何か工夫をしていच्छゃるということがあったら教えていただきたいなと思いました。

もう一つは、非常に海外での生活も含めて英語に親しんでいच्छゃる生徒さんが多いということでありましたけれども、英語がそんなに得意ではないとか、ちょっと苦手意識を持っているお子さんなどもいच्छゃるのかなと思うのですね。そうしたときに、そういったことがあっても、積極的に英語が学べるということについて、何か課題として感じられていることがあったら教えていただきたいなと思いました。

以上でございます。

中野東中学校長

ご質問ありがとうございます。まずは、小学校からの接続についてのご質問ですが、中学校でもスピーキングなどの発信する英語については、それほど正確さは求めておりません。中学校1年生であればなおのことですが、とにかく発言する、発信するという行為を大切にしてい、しっかりとした文章でなければいけないというような指導は授業の中では行っておりません。ただ一方で、正しい英語をマスターしていくことも必要ですので、2年生、3年生と学年が上がる中で、少しずつ正確な英語に修正していくような授業の組み方をしております。

また、Writingの指導については、比較的正しい英語を指導しやすい場面になりますので、そこでしっかりとした英語の文法的な知識を身につけさせるというような取組

を行っています。

それから、英語があまり得意でない生徒についてですが、公立中学校ですので、英語が苦手な生徒ももちろんいるわけで、そういう生徒たちにとっては、クラスの中に何人かいる帰国生徒や外国籍の生徒が英語をすごく流暢に話したり、A L Tと普通に会話をしたりする姿を見ることが一つのモチベーションになっています。英語を頑張って、「自分もああいふふうになりたいな」と感じる中で頑張ろうという気持ちになっているようです。また、どうしても英語が苦手でどうにもならないという生徒には、英語科の教員が放課後に補習を行ったりもしています。この夏休みにも学力補充教室を行って、そこに参加をさせることで、苦手な子どもたちの英語力を底上げする取組を行っています。

以上です。

高野委員

ご説明ありがとうございます。2点、お伺いしたいのですが、A L Tが常駐勤務になりまして、授業時間だけでなく授業外もいろいろ参加されているということで非常によいと思います。英語部だけではなく、ほかの部活動であるとか、授業に関しても英語以外の授業とかでもし参加しているものがあれば教えてください。

また、最後に説明していただいたU G U I S A Iなのですが、導入している学校、導入していない学校はありますが、それによって成績の差は、まだ出ていないでしょうか。

中野東中学校長

ご質問ありがとうございます。まずはA L Tの活用についてですが、昼休みにI S Sを開設しているというお話をさせていただきました。もちろん、そこに子どもたちが遊びに来るときはそこで対応するのですが、曜日によっては生徒が来ない曜日もあり、そういうときは本校のA L Tはすぐ校庭に出ます。校庭に出て、子どもたちとドッジボールをやったり、サッカーをやったりというような活動も行っていますので、そこでのコミュニケーションが生まれています。また、本校のA L Tは非常にサッカーが上手で、放課後、教材づくりや国際交流教室がない日には、サッカー部の活動に参加して、子どもと一緒に活動しています。ただ、現状、英語以外の授業にA L Tが入っているというような事例はございません。

U G U I S A Iの活用についてですが、実際は今年度の5月から運用が始まったソフトでございますので、正直なところ、試験的な導入をしている3校とそれ以外の6校との間で差が出ているかどうかというところまでは、わかりません。

以上です。

岡本委員

先ほど指導室長からデジタル教科書についてご説明がありましたが、中野東中学校では、どんな活用状況でいらっしゃるか教えてください。

中野東中学校長

ご質問ありがとうございます。デジタル教科書はもちろん活用させていただいております。基本的には、教員が電子黒板で写して、必要に応じては子どもたちも手元で見るなどの活用を行っています。そのほか、自宅での学習にも活用しているようです。教科書ですので、授業のベースにはなりますが、本校の英語科の教員は指導力の高い教員ですので、教科書の課題に触れながら、独自の教材等もいっぱい用意をして、教科書とうまく組み合わせた指導を行っています。

以上です。

平本委員

質問が2点ございます。

1点目は、ALTの常駐勤務によって、英語を使った活動の選択肢や幅が広がったのはとてもよいなと思ったのですが、ALT側や学校からの発案以外に、何か子どもたちの声や意見を反映させて取り組んでいることがあるのかということ、もう少しお聞きしたいなと思いました。趣旨としては、帰国生徒も多いということで、英語学習により子どもたちの意見を反映できる、工夫できる余地が結構あるのかなと思いましたので、もし何か実例や考えていることがあったらお聞きしたいなということです。

2点目は、小学校との接続という話が今あったと思うのですが、接続とはまた少し観点を変えて、小学校と中学校との交流とか連携みたいな形で何か事例があるのか、あるいは考えていることがあるのか、接続にも近いのかもしれないのですが、もっとお互いに交流し合って、英語を使って何かをやっていくような取組ができそうなのか、やっていらっしゃるのかというあたりを少しお聞きできればなと思いました。

中野東中学校長

ご質問ありがとうございます。まずはALTの活用についてですが、子どもたちからALTにこんな活動をしてほしいというようなアンケートをとったり、意見を聴取したりということは、残念ながらまだ行ってませんが、帰国生徒枠で高校を受験する生徒の英語面接の指導をしている取り組みは、何年か前に生徒から教員にリクエストがあって始まった

ことになります。そういう意味でも、ALTがいない日があると、生徒からそのようなオフアールがあった際に応えてあげられなかったりするので、今年度から常に学校にALTがいられる体制を組んでくださっていることは、いつどこで子どもたちからリクエストが来ても、柔軟に対応できる状況がつくれていると思っております。

2点目の小学校との接続を意識したやり取りや行事についてですが、英語に特化した交流や行事は今のところ実施できておりません。ただし、オープンキャンパスで授業を見学する際には、当然、英語の授業もあって、ALTが入っている授業もやっておりますので、英語の授業の様子は十分に見ていると思います。また、小学校6年生が中学校の授業を体験するオープンキャンパスの2回目のときにも、ALTが英語の授業に入ることが可能になりますので、そういった場面で小学校から中学校へのつながりが図られていると思っております。

以上でございます。

岡本委員

さっきデジタル教科書について伺いまして、今、ご説明いただいたことはデジタル教科書でないとできないのか、紙の教科書でも、先生方が教材を工夫することで実現可能な授業なのか、いかがでしょうか。

中野東中学校長

ご質問ありがとうございます。紙の教科書ではやりづらいことが多いと思います。例えば、教科書の本文の授業のときなどは、教員が電子黒板にデジタル教科書の本文を映しながら、そこに画面上で線を引いたり書き込んだりできますので、生徒たちはそれを見ながら、自分の手元の教科書で学習を進めることができます。また、デジタル教科書は音声の読上げ機能がありますので、家で一人で勉強するときに本文が読めないとか、単語の発音がわからないということがあっても音声で聞くことができますので、自学、自習をする上では段違いのアドバンスがあると思っております。紙の教科書の良さもちろんありますが、様々な活動がデジタル教科書ではやりやすく、効果が高くなると思っております。

以上でございます。

田代教育長

ほかに追加でご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のテーマにつきまして、それぞれの発表と協議を一通り行いましたが、指導室長からの説明も含めて、全体を通して、教育委員の皆様からご意見やご質問がありま

したらお伺いしたいと思います。

ご発言はございますでしょうか。

伊藤委員

お話の中には直接あまりなかったのですが、こういったいろいろな取組を支えてくださる先生方も大変努力してくださっているのかなと思っております。ぜひ、先生方も英語力をブラッシュアップできるような、そういう研修体制をさらに整えていただけるとありがたいなと、感想ですけれども、思いました。

以上でございます。

田代教育長

ほかに教育委員の皆様からございますでしょうか。よろしいですか。

それでは協議を終了いたします。

ここで会議を一旦休憩して、傍聴者の方々からもご意見などを伺いたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

(休憩 午後8時07分)

(再開 午後8時13分)

田代教育長

会議を再開いたします。

それでは、会議を終了するにあたり、私のほうからまとめさせていただきます。

本日は、英語教育の充実をテーマに貴重な報告と活発なご協議をいただき、ありがとうございました。英語教育の目的は、単に知識や技能を身につけることにとどまりません。子どもたちが英語を通して異なる文化や価値観に触れ、自らの考えを伝えながら、他者と協力し合い、協働していく力を育むことに大きな意義があると考えております。

本日の協議では、小学校段階で育まれた、英語を使ってみたい、外国の方と交流してみたいという意欲を、中学校においてさらに伸ばしていくことの重要性が確認されました。また、子どもたちが実際に英語を使う場面や機会を充実させることが学習への意欲や自己肯定感の向上につながるということについても改めて認識を共有できたものと受け止めております。

また、傍聴の方々からも、英語教育の充実について様々な視点からご意見をいただき、ありがとうございました。英語教育については、学力の向上やコミュニケーション能力の育成、国際理解の推進など多くの観点から議論をすることができます。本日の協議においても様々な意見がございましたが、共通していたのは、子どもたちが英語を通して自信を持

ち、世界の多様な人々とつながる力を育んでほしいという願いであったと受け止めております。

英語は試験のためだけに学ぶものではなく、自分の考えを伝え、相手を理解するための大切な手段の一つだと思っています。そのためには、授業での学習だけでなく、実際に英語を使い、伝わる喜びや、新たな発見を実感できる機会を充実させていくことが重要であると考えております。また、英語が得意な子どもも苦手な子どもも、それぞれが成長を実感しながら、学び続けられる環境を整えていくことも教育委員会の重要な役割だと思っております。

中野区は、多様な文化背景を持つ方々がともに暮らすまちです。そのような環境の中で育つ子どもたちが、英語を学ぶものから使うものとして実感し、自信を持って未来を切り開いていけるよう、教育委員会としても引き続き、英語教育の充実に努めてまいります。本日はありがとうございました。

それでは最後に、事務局から次回開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会定例会は8月21日金曜日午前10時から、区役所7階教育委員会室にて実施いたします。

なお、諸事情により、急遽休会になる場合がございます。中野区のホームページにてご確認をお願いいたします。

田代教育長

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第19回定例会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午後8時17分閉会